

回の調査地域でも、5種以上の水草を確認したのは、パターン1と2の種が生育するT-N、T-P値が低い池であった。

フトヒルムシロが貧栄養な山地の池に生育することはKadono (1982)、浜島 (1983)、国井・国井 (1985)なども指摘している。またヒシが広い範囲の水域に出現することも各地から報告されている(たとえば浜島、1979、1983;角野、1984;国井・国井、1985など)。ジュンサイ、ヒツグサ、タヌキモ類、ホソバミズヒキモ、スブタなどの出現傾向も、浜島 (1983)、国井・国井 (1985)、国井 (1986)などの報告とほぼ一致していた。

## 文 献

- 浜島繁隆. 1979. 池沼植物の生態と観察. 110pp. ニューサイエンス社、東京.  
 浜島繁隆. 1983. 東海地方のため池でみられる水生植物

の種組成と水質の関係. 陸水学雑誌 44: 1-5.

- 橋本卓三. 1987. 西条盆地(東広島市)のいくつかの溜池の水質と植生. ため池の自然 6: 9-10.  
 Kadono, Y. 1982. Distribution and habitat of Japanese *Potamogeton*. Bot. Mag. Tokyo. 95: 63-76.  
 角野康郎. 1984. 兵庫県東播磨地方における溜池の水生物. 植物地理・分類研究 32: 127-135.  
 国井秀伸. 1986. 島根県松江市近辺の水草相(要旨). 水草研究会報 25: 13-15.  
 国井秀伸・国井加代子. 1985. 松江市近辺の水草の分布に関する予報. 植物と自然 19(11): 31-34.  
 下田路子. 1983. 広島大学統合移転地およびその周辺部に分布するため池の水草. 植物地理・分類研究 31: 46-57.

○日本植物分類学会編『レッドデータブック 日本の絶滅危惧植物』(農村文化社、1993年5月、144p, 3, 500円)

1989年に出版されたレッドデータブック植物版(「我が国における保護上重要な植物種の現状」)は、書店では入手できないものであり、また内容も一般には親しみにくいものであった。そこで、その普及版として本書が企画された。

第1章は、レッドデータブックの総論“絶滅のおそれのある植物種の現状”が、ごく一部修正されているが、ほぼそのままの形で再録されている。かなり堅い内容だが、カラー写真等を各所に入れて読みやすくしている。第2章は絶滅危惧種895種の中から代表的な200余種を選び、写真と簡潔な種の解説がある。この章を見ることによって、今、日本でどのような種が絶滅の危機にあるのか、そして、その原因は何かを概観することができる。なお、これら200余種は盗掘などを助長しないように慎重に選択されているが、この中に水草や湿生植物が50種ほど含まれていることを見ても、如何に水域や湿地の植物が危機的状況にあるかがわかる。第3章はレッドデータブック掲載種をまとめた資料で、都道府県別の情報も盛り込まれている。

本書が、一人でも多くの人に読まれ、種の絶滅危惧問題への関心の喚起と絶滅危惧種の保護のためのささやかな力になることを期待する。

○松沢篤郎・青木雅夫『渡良瀬川支流山塊の植物(シダ植物編)―シダ植物の分布と見分け方』(自費出版、1992年11月、158p.)

群馬県と栃木県の県境にまたがる渡良瀬川周辺地域の植物誌のシダ植物編である。巻頭のカラー写真、代表種の標本のシルエット(コピー)に続き、当該地域の環境とシダ植物の概要がまとめられている。ここではシダ植物を分類するときの重要な形質と用語が図入りでたいへんわかりやすく説明してある。この部分は地域を問わずシダの勉強をしようという人にはすぐれた入門テキストになろう。続いてこの地域に分布する162種について見分け方や分布状況などが「観察ノート・特徴」として解説してある。短い解説ではあるが、既刊の図鑑に出ていないユニークな内容は、著者の長年の観察に裏付けられたもので、たいへん貴重なものと思う。水草では、ミズニラ、ミズワラビ、サンショウモ、オオアカウキクサなどが記録されている。(角野 康郎)